

# まごころ

＝ともに生きる暮らしをめざして＝  
 特定非営利活動法人  
 尾張地域福祉を考える会まごころ  
 まごころ訪問介護事業所  
 NPO法人まごころ児童デイ

## 児童デイサービスNEWS

### ◇◇ 第十二回 総会開催 特定非営利活動法人「尾張地域福祉を考える会 まごころ」◇◇

今年度 これまでの活動に加えて、よりニーズに沿えるよう体制強化をはかります

#### 7月から水・金曜日の午前のデイ開始

午前のサービスを希望されるニーズに応える為、7月から水・金曜日の午前9時30分から12時までの児童デイサービスを2単位目としてサービス開始致します。予約も受け付けておりますので、ご利用下さい。

また、自宅以外からのお迎えについては移動サービスで対応しておりますので、お困りの方はお問い合わせ下さい。

今後ともサービスの質の向上についても研修や勉強会等を重ねながら努力して参りますので、ご提案・助言など賜りますようお願い致します。

7月からの児童デイサービスの利用時間  
 月・水・木・金曜日 午後3時～6時  
 水・金 午前9時半～12時  
 土曜日 午前10時～午後5時

#### 消防自動車に乗ったよ

5月14日(土)一宮市消防本部に見学に行きました。隊員さんたちは消防について優しく説明をくださいました。

救急車や消防自動車に乗せてくれたのですが、最初は泣き出す児童もいました。一人ずつ乗るうちに、だんだん自分も乗りたくなったのか、今度は我さきに乗るようになりました。

突然、警報が鳴り響き、ついさっきまで説明してくれていた隊員さんたちが走って救急車の方へ行かれました。次の瞬間サイレンを鳴らしながら救急車は街へ飛び出していきました。

緊迫した空気が流れたあと、また和やかな体験乗車が続きました。

このような緊急出動が1時間の見学時間の中で3回もありました。

隊員さんのお仕事はたいへんなんだと実感しました。



消防車の運転席に乗り込んだIちゃん  
 このあと、次々にこの運転席に座ってくれました。



◆ふつうの状態であること  
 この取り組みは、引き続き今年度の課題とし、「すべて人がふつうの状態であること」を目指して活動を行ってまいります。  
 また、ひとりで移動が困難な方々への《有償福祉運送》法国の整備対象になり、その法律も出来、新しい展開に向けての準備を進めた年です。

◆すずむ福祉のビジネスル  
 「まごころ」は今年十四年を迎えました。  
 元足当時、福祉は措置福祉でした。限られた措置福祉は介護の狭間を見ることになりました。その不安を安心に変えるため、私たちは介護の社会化を目指し、助け合い活動を行ってきました。活動を通じてきました。  
 私達が目指した介護の社会は、違った形の介護保険制度、支援費制度という事業導入の実現を果たしつつあります。結果、介護の社会化が進みかけた反面、危惧していた福祉のビジネス化が一層著くなり、その弊害も生まれてきました。  
 私たちは、NPO法人として、その弊害を避けるよう努力していかねばならないと考えています。



「感」

この度、Aさんからご寄付をいただきました。

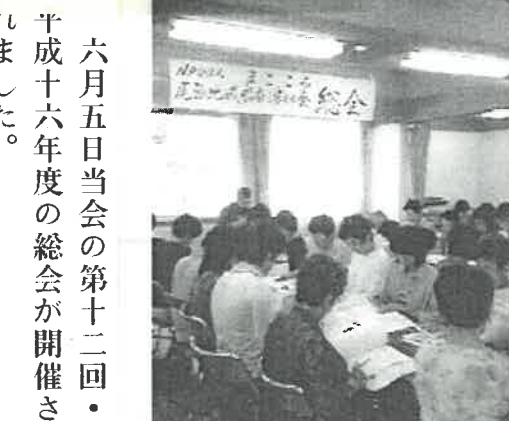
◆作成に向けて、勉強会開始  
 十七年度は、さらに研修強化。年間計画で勉強会を開催し、ケアに当たって苦手な部分や忘れがちな部分、看護の立場からみたホームヘルパーの役割、気づいてもらいたい介助など、山田さんから学びます。

◆質確保へ事業赤字も  
 今年度も、介護保険事業が助け合い活動へおよそ二、三万円の補填、また、支援費住宅介護事業から児童デイサービス事業へ赤字補填がされました。  
 安全と質の確保から考え、児童デイサービスへの職員及スタッフを多く配置したことで、児童デイサービス事業は赤字事業になりました。  
 発達障害者及び児童への福祉施策が浮き彫りになりました。

◆すずむ福祉のビジネスル  
 「まごころ」は今年十四年を迎えました。  
 元足当時、福祉は措置福祉でした。限られた措置福祉は介護の狭間を見ることになりました。その不安を安心に変えるため、私たちは介護の社会化を目指し、助け合い活動を行ってきました。活動を通じてきました。  
 私達が目指した介護の社会は、違った形の介護保険制度、支援費制度という事業導入の実現を果たしつつあります。結果、介護の社会化が進みかけた反面、危惧していた福祉のビジネス化が一層著くなり、その弊害も生まれてきました。  
 私たちは、NPO法人として、その弊害を避けるよう努力していかねばならないと考えています。

◆すずむ福祉のビジネスル  
 「まごころ」は今年十四年を迎えました。  
 元足当時、福祉は措置福祉でした。限られた措置福祉は介護の狭間を見ることになりました。その不安を安心に変えるため、私たちは介護の社会化を目指し、助け合い活動を行ってきました。活動を通じてきました。  
 私達が目指した介護の社会は、違った形の介護保険制度、支援費制度という事業導入の実現を果たしつつあります。結果、介護の社会化が進みかけた反面、危惧していた福祉のビジネス化が一層著くなり、その弊害も生まれてきました。  
 私たちは、NPO法人として、その弊害を避けるよう努力していかねばならないと考えています。

◆すずむ福祉のビジネスル  
 「まごころ」は今年十四年を迎えました。  
 元足当時、福祉は措置福祉でした。限られた措置福祉は介護の狭間を見ることになりました。その不安を安心に変えるため、私たちは介護の社会化を目指し、助け合い活動を行ってきました。活動を通じてきました。  
 私達が目指した介護の社会は、違った形の介護保険制度、支援費制度という事業導入の実現を果たしつつあります。結果、介護の社会化が進みかけた反面、危惧していた福祉のビジネス化が一層著くなり、その弊害も生まれてきました。  
 私たちは、NPO法人として、その弊害を避けるよう努力していかねばならないと考えています。



◆すずむ福祉のビジネスル  
 「まごころ」は今年十四年を迎えました。  
 元足当時、福祉は措置福祉でした。限られた措置福祉は介護の狭間を見ることになりました。その不安を安心に変えるため、私たちは介護の社会化を目指し、助け合い活動を行ってきました。活動を通じてきました。  
 私達が目指した介護の社会は、違った形の介護保険制度、支援費制度という事業導入の実現を果たしつつあります。結果、介護の社会化が進みかけた反面、危惧していた福祉のビジネス化が一層著くなり、その弊害も生まれてきました。  
 私たちは、NPO法人として、その弊害を避けるよう努力していかねばならないと考えています。

- 【平成16年度の活動報告】
- ◆助け合い活動
    - ・在宅支援(訪問回数1,976回/訪問2,890時間)
    - ・移動サービス(運転回数1,961回/活動人数205人)
    - ・ミニデイサービス(開所回数90回/利用者数923人/活動者数898人)
    - ・映画と講演の集い(参加者575人映画「母のいる場所」及び監督榎坪多鶴子さん講演)
    - ・広報活動(会報「まごころ」の発行/12回/毎回600部)
    - ・地域ふれあい祭り(会員及び利用者さん、地域の方々参加者250人)
    - ・ふれあい広場事業(広場提供 パン工房、太極拳、ピアノ教室 延べ200人)
    - ・レスパイト事業(発達障害児童への支援25人)
  - ◆ワーカー定例勉強会(15回 参加者協力会員645人)
  - ◆一宮市委託講座(介護予防家族、自立、認知症3講座参加者100人)
  - ◆一宮市補助事業(精神障害者訪問介護 1名/27回訪問/82時間)
  - ◆講座事業(2級、精神、ガイドヘルパー養成研修講座開催)
  - ◆介護保険事業(訪問介護/活動時間 14,808.5時間)
  - ◆支援費事業居宅(訪問介護/活動時間 4,373時間)
  - ◆支援費児童デイ(開所日数/204日 利用者数1,746人)

- 【平成17年度活動方針は...】
- ①地域の皆さんにふれあい広場の開放
  - ②児童デイサービスの質と量の拡充
  - ③移動サービス及び訪問介護、移動介護等の担い手の拡充
- 【平成17年度役員は次の通りです】
- ◆理事
- ・伊藤和子(外部理事)・諫山和敏(事務局長)
  - ・小野木みどり・川崎ユミ子
  - ・野田満喜子・平田和香(代表)
  - ・山田宏子・岡本愛子(ワーカー代表)
- 監事
- ・築城基緒・水野元子